

## 令和2年度 第2回燕市学校給食運営委員会会議録（要旨）

日 時： 令和3年1月19日（火）午後3時から4時まで

場 所： 燕市役所 1階つばめホール

出席委員： 燕東小学校委員、燕南小学校委員、燕北小学校委員、小池小学校委員、  
大関小学校委員、小中川小学校委員、粟生津小学校委員、吉田小学校委員、  
吉田北小学校委員、分水北小学校委員、分水小学校委員、島上小学校委員、  
小池中学校委員、燕北中学校委員、分水中学校委員、  
食物アレルギーに識見を有する者

欠席委員： 吉田中学校委員、学校薬剤師

委託業者： 株式会社味彩燕、株式会社メフォス

事務局： 教育長、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、学校教育課課長補佐、  
東部学校給食センター栄養教諭、西部学校給食センター栄養教諭、学校給食係

### 1 開会挨拶 学校給食運営委員長

### 2 内 容 （進行 学校給食運営委員長）

#### (1) 新型コロナウイルス感染症に関する対応について

- ・燕西小学校の臨時休業による給食中止では、保護者から給食費は徴収しないこととし、日持ちしない食品についてはフードバンクにいがた県央三条センターに寄付し、福祉目的で活用した旨を報告した。
- ・給食センターにおける感染防止について説明した。
- ・国産農畜水産物を活用した学校給食提供事業で、佐渡産ブリとにいがた和牛の提供を受けたことを報告した。

#### (2) 事業報告

- ・トマミそカレー豚丼の動画を公開し、給食&食育だよりで周知した。
- ・減塩愛ディア献立を月1回実施している。
- ・農林水産省Webマガジン「aff(あふ)」に鶏肉のレモン和えが掲載された。

#### (3) 学校給食における地産地消の状況

- ・産地別野菜使用量と県内・市内産使用率の実績を報告した。
- ・市内生産者から納入された野菜の種類について報告した。

#### (4) 給食&食育だよりのサイズ変更について

令和3年度から給食&食育だよりのサイズをB4からA3とすることについて説明し、委員の承認を得た。

(5) 吉田中学校の学校給食に混入した異物について

9月28日に吉田中学校で学校給食に針金状の異物が混入する事故が発生し、発見状況、異物の特定、今後の対応について報告した。

【委員の意見等】

委員 SUS304は錆びないことから、経年劣化で破損したとは考えられない。使用中にどこかにぶつけた痕はないのか。調理器具ではなく、調理員が持ち込んだということはないか。また、破断面はどのような状況だったのか。

事務局 断面からの断定はできなかった。  
調理器具は目視点検をするが、網を見たときにそうした箇所は見つからなかった。その網が原因とは特定できなかった。

委員 食品を購入した段階で金属検査はしているか。

事務局 下処理や洗浄を行わない食肉についてはセンター内で金属探知機を通してしている。その他の加工品や調味料は、製造業者が金属探知機を通してしている。野菜や卵は金属探知機を通していない。

事務局 野菜等は洗浄の過程で異物確認を行っており、野菜はキャベツ等  
(栄養教諭) も全部バラバラにして洗浄しているため、異物混入の危険性は低い。

(6) 令和2年度 燕市学校給食残量調査

令和2年度燕市学校給食残量調査の結果、小学3・4年生は6.2%、中学2年生は11.0%であったことを報告した。

- ・小学3・4年生、中学2年生とも昨年度より残食率が増加した。
- ・残食率が低かったのは「主菜」及び「牛乳」であった。
- ・提供量に対する栄養素の減少率はビタミンB<sub>1</sub>、ビタミンC、鉄で高かった一方、ビタミンB<sub>2</sub>やカルシウムの減少率は低かった。
- ・今後、カルシウムの摂取量増加を目的として、中学生に250mlの牛乳を提供できないか検討する。

【委員の意見等】

委員 栄養素減少のグラフについて、せっかくこのような素晴らしい調査結果が出たが、周知されているのか。家庭で補ってもらえるような献立の工夫などの周知をしてもらえたらいいと思うがどうか。  
中学生に250mlの牛乳を出すことについては賛成だが、そうなっ

た場合に、給食費の値上げは生じるか。

事務局 調査結果については、学校にはお知らせするが、家庭へのお知らせは考えていなかったため、今後検討する。

今年度の牛乳の価格でみると、250 mlの牛乳は価格が13円ほど高くなる。牛乳の増量については、これから検討していく段階であるが、もしそうなれば値上げは必要であろうと考えている。

委員（校長） 残った牛乳の廃棄は学校で行っており、その分が調査集計に入っているのか疑問である。

以前勤めた学校では、牛乳が残ると食缶に開けていたが、燕市ではそれができず、水道にあけたり、バケツに開けたりしている。

全部飲めなかった時の処理が面倒なので、全部飲めない子は飲まない選択をしているのではないかと職員の中で話題になった。残した牛乳を食缶に返せば、もっと飲むのかなと思っている。

事務局 牛乳は給食センターに返却されないので、教育委員会では、何本余ったのかを報告する用紙を学校にお渡しして調査をお願いしている。もし、職員がそれをカウントせず廃棄しているという状況があったとしても、教育委員会では見えない。

委員（校長） 学校職員が報告しているのであれば、それは正しく報告している。

委員 残す生徒が多いのならば、250 mlにする意味がない。決める前にもう一度調査をした方がいいのではないか。

また、お昼に250 mlを飲むのは多くはないかということも考えてほしい。

事務局 牛乳の量については実態把握をして検討する。

委員 牛乳以外の方法でカルシウムをとる方法を検討しているか。

事務局 中学のみチーズ、ヨーグルト、小魚などを付けることがあり、それらで少しずつ栄養素を補っている。  
(栄養教諭)

委員（校長） 給食の残量を見るときに、給食の全体量が適正か、という視点も必要だ。栄養素を満たそうとするとどうしても全体量が多くなって

しまう。牛乳を増やすことで、ほかの残量が増えるということもあり得るので、そこも検討材料にしてもらいたい。

(7) 魚の骨が喉に刺さることへの対応について

魚の骨が喉に刺さったという報告が多くあったことから、学校に対しての注意喚起と、給食&食育だよりで児童生徒への働きかけを行ったことについて説明した。

3 閉会挨拶 教育長